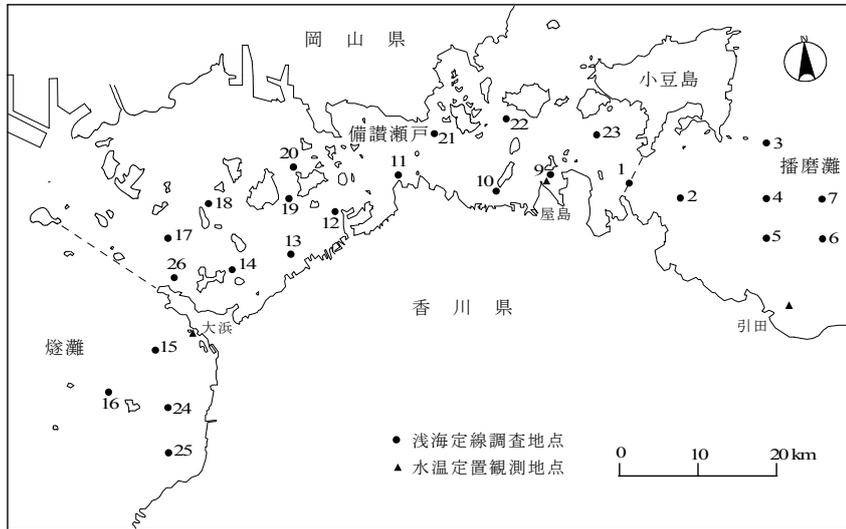


# 香川県漁海況速報 平成22年12月 (H22-9号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



## 2) 浅海定線調査

### (1) 調査日

平成22年12月2日 (備讃瀬戸, 燧灘), 6日 (播磨灘)

### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「平年並みからかなり高め」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

12月

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	17.7	17.7	17.8	32.2	32.3	32.3	8.0	5.11	5.09
	平年値	16.8	16.8	16.8	32.1	32.1	32.2	7.3	5.35	5.25
	平年偏差	1.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.58	0.58
	標準偏差(σ)	0.9	0.9	1.0	0.7	0.7	0.7	1.7	0.21	0.21
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め
備讃瀬戸	14地点平均値	16.5	16.5	16.5	32.2	32.2	32.2	7.0	5.37	5.31
	平年値	15.9	15.9	15.9	32.1	32.1	32.1	5.1	5.35	5.32
	平年偏差	0.7	0.6	0.6	0.1	0.1	0.1	1.9	0.02	-0.01
	標準偏差(σ)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.3	0.30	0.33
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	かなり高め	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	17.0	16.9	16.9	32.5	32.5	32.5	10.2	5.46	5.39
	平年値	16.3	16.3	16.3	32.4	32.4	32.4	7.5	5.39	5.28
	平年偏差	0.7	0.6	0.6	0.1	0.1	0.1	2.7	0.07	0.11
	標準偏差(σ)	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	2.5	0.32	0.34
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年(1973)1月～平成13年(2002)12月

溶存酸素：昭和48年(1973)2月～平成13年(2002)12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み  $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$  ( $\sigma$  : 標準偏差)

やや高め (やや低め)  $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め (かなり低め)  $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め (著しく低め)  $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

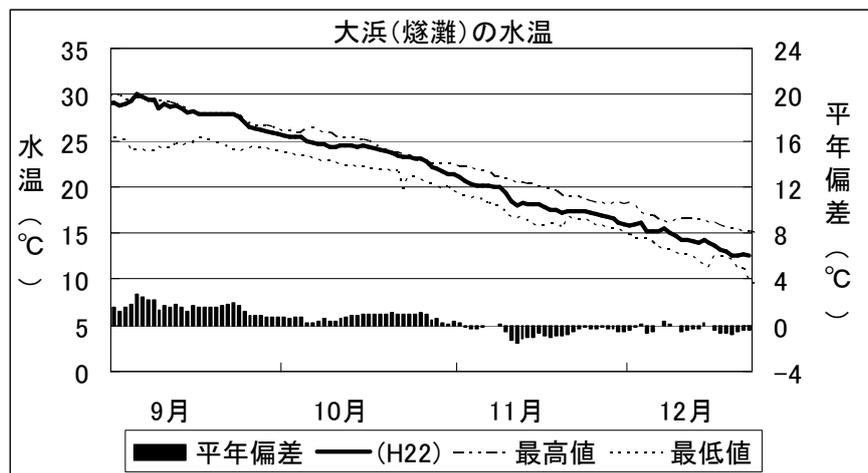
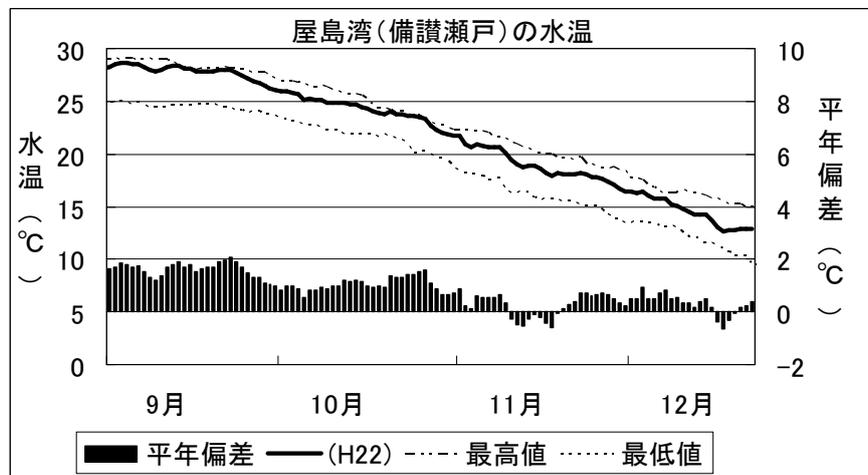
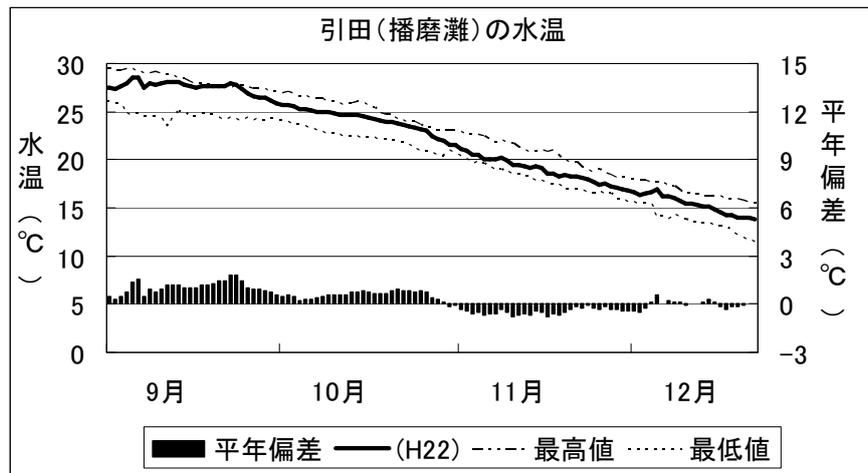
### 3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 9月は平年並みから著しく高め、10月は平年並みからかなり高めの間で推移していたが、11月は平年並みからやや低め、12月はやや低めからやや高めの間で推移している。(9月下旬に4日、過去最高値を更新。)

備讃瀬戸 (屋島) : 9月はかなり高めから著しく高め、10月はやや高めから著しく高めで推移し、11、12月は平年並みからやや高めで推移している。(10月下旬に1日、過去最高値を更新。)

燧灘 (大浜) : 9月はかなり高めから著しく高め、10月は平年並みからかなり高めで推移し、11月は平年並みからかなり低め、12月は平年並みからやや低めで推移している。(9月上旬に3日、中旬に5日、10月中旬に1日、下旬に3日、過去最高値を更新。)

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 21 (2009) 年  
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 21 (2009) 年



#### 4) 赤潮 (11月25日～12月24日)

播磨灘：12月6日に播磨灘西部海域において *Noctiluca scintillans* による赤潮が確認された。  
 備讃瀬戸：発生なし。  
 燧灘：発生なし。

#### 5) 卵稚仔

調査日：平成22年12月2日（備讃瀬戸，燧灘），6日（播磨灘）

出現量

－：平年値が0の場合を示す。（その他の魚類については平年値がない。）

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年（1980）～平成21年（2009）年度

マイワシ：平成5年（1993）～平成21年（2009）年度

イカナゴ：平成7年（1993）～平成21年（2009）年度

		カタクチイワシ		マイワシ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.5
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0		
	対平年(%)	0	0	－	－		
備讃瀬戸	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.1
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.2		
	対平年(%)	0	0	0	0		
燧灘	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3
	平年値	0.0	0.0	1.9	0.4		
	対平年(%)	0	0	0	0		
総平均	平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.2
	平年値	0.1	0.0	0.3	0.2		
	対平年(%)	0	0	0	0		

カタクチイワシの卵は，確認されませんでした。

## 2. 漁況

11月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にマダイ、ヒラメ、メイタガレイ、カワハギ、ウマヅラハギ、マアナゴ、小エビ類、マダコ、コウイカ、アカニシが漁獲されている。また、マダイ、ウハヅラハギ(小)は好調、ウシノシタ類、ガザミは低調、その他の魚種は前年並みである。</p> <p>建網では主にスズキ、クロダイ、カサゴが漁獲されているが低調である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にマダイ(小)、スズキ、マアナゴ、ハギ類、フグ類、メイタガレイ、マダコ、イイダコ、コウイカ、小エビ類、アカニシが漁獲されている。</p> <p>建網では主にメバル、カサゴ、ウミタナゴが漁獲されている。</p> <p>中讃・高松沖のたいらぎ潜水器漁業は12月1日から操業が開始されているが、漁期始めの漁獲量は30～50kg/隻・日と低調である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にスズキ、メイタガレイ、ゲタ類、フグ類、カワハギ、コウイカ、ガザミ、シャコ、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマダイ、マルアジ、スズキ、カワハギが漁獲されている。</p> <p>さわら流し刺網による漁期中(10,11月)の漁獲量は、サワラが約1.5トン(平成19年～平成22年の平均比約44%)、サゴシが0.2トン(同比約32%)と低調であった。</p>